

磐田市平和祈念式「平和への想い」

私は広島派遣事業を通して、学校だけでは学べない、たくさんのことを肌で感じてきました。1945年8月6日午前8時15分、広島で約14万人の命が一瞬にして奪われた原爆投下。人々は普段と変わらない日常を送り、中学生は空襲によって火災が広がるのを防ぐため、建物を取り壊す、建物疎開作業をしていました。爆心地から約1.2 km以内にいた人は熱線によって即死。爆心地から約3.5 kmまで被害が及んだといわれています。皮膚は焼けただけ、同じ人間とは思えないような体になってしまったと聞いても私は全く想像はできませんでした。

広島平和記念資料館では、そんな原爆の悲惨さを表した資料がたくさんありました。私の心は恐怖心で埋め尽くされ、胸が締め付けられました。原爆によってどれだけの被害が出て、どれだけの人々が辛い思いをし、それがどれだけ悲惨な出来事だったかが、一目見ただけですぐに解ったからです。

今回この広島派遣事業で、私は平和について、もう一度考え直すことができました。広島では、原爆の恐ろしさや平和の尊さを全国、全世界に発信していくために、様々な取り組みをしています。今回私たちが訪れた安田女子高等学校の被爆桜もその一つです。生きる喜びや希望を与え、平和についてもう一度考え直してもらうために、生徒会の提案で、被爆桜の苗木を全国に送る活動をしました。ひとつの学校の生徒が、世界平和を守るために計画をし、それを実行に移す。これは簡単なことではなく、どんな方法であったとしても平和について伝えていくということはとても大切だと思います。

たった一つで広島を壊滅させた核兵器は、世界で12,000発以上もあると言われています。もし全ての核兵器を発射してしまえば、地球は簡単に滅んでしまうほどの数です。今、核兵器を廃絶する取り組みについて世界各国で話し合いがなされ、核兵器の数は少しずつですが減ってきています。それでも、私たちは核兵器と隣り合わせで生きています。いつ核兵器が発射されてもおかしくありません。歴史とは世界の成長です。原爆が落とされた、この悲惨な歴史を世界の成長へと繋げていかなければなりません。

私は今回貴重な経験をさせていただきました。平和とは何か。今の世界は平和とは言えるのか。今私たちにできることは何か。そんなことを考えるきっかけになりました。平和を願う気持ち、誰しもその心はあるはずです。紛争や戦争が絶えない今、世界平和をすぐに達成するのは難しいことかもしれません。ですが、小さなことでも私たちの身近に平和を築いていくことが、世界平和への第一歩となると考えます。広島に原爆が落とされた、この歴史を忘れることなく、今私たちにできることを考えていきたいです。国と国との大きな話し合いでも、私たちの些細な会話を通じてでも、戦争はしてはいけないという共通の認識が少しでも広まることを願います。

令和5年8月15日

代 表 森田 唯斗（磐田市立磐田第一中学校）